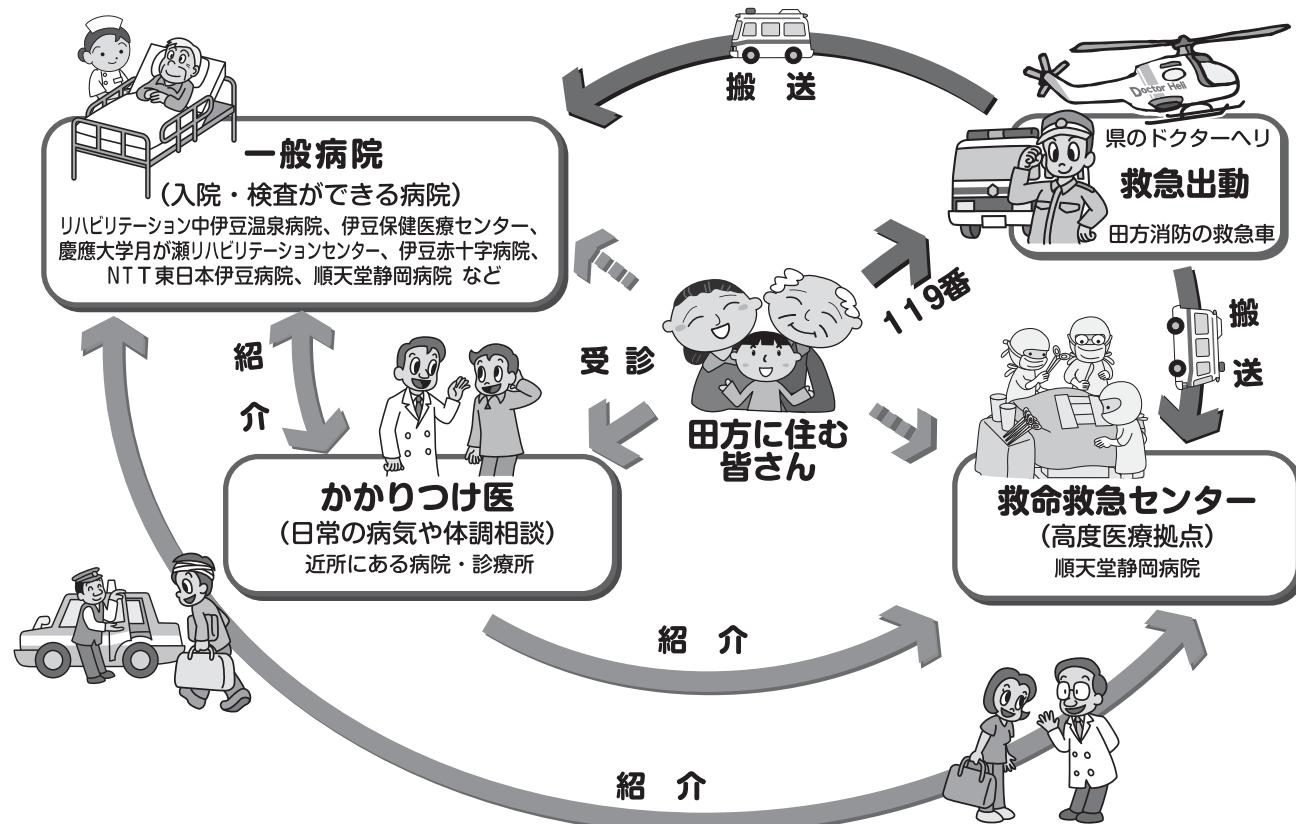


つながる 田方地域の医療・救急機関



田方医師会ホームページで近所のお医者さんや休日の急诊診療当番医を検索 <http://www.tagata-ishikai.jp/>



かかりつけ医を持つ

もり ただし
森 正さん (86歳・伊豆市在住)

60歳を過ぎたころ、集団検診で胃に影が見つかったことから、近所のお医者さんで年1回、胃カメラを撮るようになりました。

10年ほど前、前年より胃潰瘍が大きくなっていることから、がんが疑われ、専門医を紹介されて手術をしました。毎年同じ先生に診てもらっていたからこそ、早期発見と完治ができ、今も元気でいるのだと思います。

この年になると、健康に不安を感じることも多々あります。かかりつけ医を決めておくと気兼ねなく相談できるので、心強いです。

風邪や腹痛などで健康状態に違和感を感じたときにはまず、あなたの身近にある診療所や病院での受診をおすすめします。

自分や家族のかかりつけの医師を決めておきましょう。かかりつけ医は、健康状態や病歴、持病などを把握して、入院や精密検査が必要な場合は専門医を紹介してくれるほか、緊急時にも迅速で適切な対応をしてくれます。

また普段も、食事や生活など健康管理のアドバイスもしてくれる、診察の待ち時間が比較的短く手続きも簡単など利点があります。

転ばぬ先の
近所のお医者さん

田方医師会の病院・診療所

かかりつけ医

田方医師会の病院や診療所は、平日の診察時間以外にも、休日は当番制で皆さんの急な病気に対応している(休日の急诊診療当番医)、頼もしいお医者さんたちなのです。

①相談しやすいこと
②病気、治療、薬などを分かりやすく説明してくれること
③自宅や勤務先から近く、通いやすいこと
④患者を抱え込まず、すぐに適切な専門医を紹介してくれること



つながる 医療

～地域の救急医療を知る～

皆さんは地域のお医者さんと上手に付き合っていますか？

私たちの住む田方地域(伊豆市、伊豆の国市、函南町)には、大病院からまちの診療所まで七十以上の医療機関があり、普段からかかりつけ医などとしてセンターなど、それぞれの役割を果たしています。

皆さんの健康を支えています。

これらの医療機関は皆さんのが急な病気や事故に見舞われたときも、救急車やドクターヘリと連携して、休日の急诊診療当番医、夜間急患室、救命救急センターなど、それぞれの役割を果たしています。

田方広報研究会では、田方地域における医療・救急機関の『つながり』をお伝えしたいと思います。

田方広報研究会 共同編集

田方広報研究会は、伊豆市、伊豆の国市、函南町、JA伊豆の国、伊豆保健医療センターの各広報担当者で構成する田方地域の広報研究会です。

問合せ 秘書広報課 電話 055 948 1431

もしもあなたが、思いがけない急病や事故に見舞われたとき、電話で駆けつけ、病院に搬送してくれる、救急車。田方消防本部管内（伊豆の国市・伊豆市・函南町）には一本部三署一出張所があり、計六台（予備一台）の救急車が配備されています。

田方消防管内では救急車の出動件数は今年六月までの半年間で二千五百七十三件ありますが、その九割以上は医療機関に搬送しています（田方消防本部調べ）。それは、順天堂静岡病院をはじめとする地域の医療機関の受け入れ体制が確保できるうえ、多くの人が救急車の利用に

田方だけではなく、静岡県東部全体の医療拠点である順天堂静岡病院。ここでは、総合周産期母子医療や、がん診療連携拠点などとして最先端の高度医療のほか、三次救急医療施設（救命救急センター）としても、救急医療が行われています。

二十四時間体制による治療、看護、管理を行うICU、心疾患などに集中管理体制を行うCCUを含め、救命救急センターでは夜間も多く専門医が待機し、年間二万人以上の専救急外来に対応することができます。

伊豆半島の救急医療
最後の砦

救命救急センター

順天堂大学医学部附属静岡病院

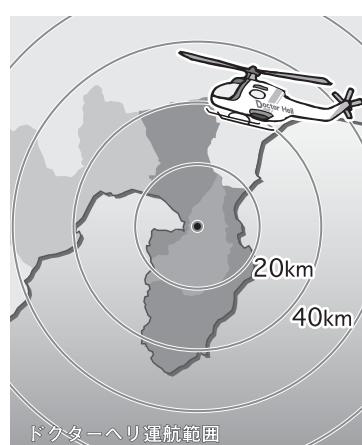


重症患者を優先的に

うづらまさひこ
卯津羅 雅彦 医師

(順天堂静岡病院 救命救急センター長)

ドクターへりの導入により、医師がいち早く現場に駆けつけ、より充実した医療行為が行えるようになりました。現場では、医師も救命救急士も「患者を助ける」という目的のもと、お互いの技術・経験などを活かし合って、救命活動をしています。また、病院での診察も、重症患者を優先することで、待ち時間が長くご迷惑をお掛けすることもありますが、田方地域の人は他地域に比べ、深い理解をいただいていると感じています。



また順天堂静岡病院では、空飛ぶ救急治療室ともいえるドクターへりも備えています。天候によって飛べないこともあります。毎朝八時半から日没（または十七時）まで、静岡県東部全域へ広範囲に活躍しています。ドクターへりは、消防署の通信指令室からの要請で、フライドクター（医師）と、フライトナース（看護師）を乗せて出動します。出動までの所要時間は四分程度。静岡県東部の現場なら、出動から十五分以内に到着できます。交通事故による大けが、生命にかかる急病などで一刻を争う重症患者の発生時に、医師がいち早く現場に到着し、接触・治療または病院へ搬送することは、より確実に命を救うことにつながります。

車で二十分以内の現場では、救急車の方が早いこともあります。それ以上に搬送時間がかかる場合には、ドクターへりの力が發揮されます。伊豆半島は生活区域が山によつて分散されていますが、ドクターへりは交通事情にかかわらず、迅速に患者を搬送できます。順天堂静岡病院から下田までの約四十kmも、ドクターへりならわずか十五分で到着できる

このように田方地域の医療・救急機関は、それぞれの役割で連携して、救急医療の現場を支えています。

しかし、医療は救急だけではありません。田方地域には医師や看護師、産科の不足や在宅医療など、まだまだ多くの課題が残されています。

皆さんで現状を知り、理解していくことが、地域の医療をさらに充実させていくことにもつながるのです。



救急車でかけつける

しもやま まさみ
下山 正美 救急救命士 (田方消防本部)

救急車は、皆さんからの119番で、24時間いつでも出動します。傷病者の様子や事故の状況などから、急いで病院へ連れて行った方が良いと思ったときには迷わず通報してください。しかし、緊急性がなく自分で病院に行ける場合は、救急車の利用は控えましょう。

救急車を利用しない場合も、患者の症状から判断して最適な医療機関を紹介することができます。病院選びに迷った時はお近くの消防署にお電話ください。

田方中消防署
電話 0558(76)0119

田方消防本部ホームページで救急救命に関する情報などを検索 <http://www.tagata-fd.jp/seikatu.htm>

もしもあなたのときのときには、もしも電話で駆けつける

救急車

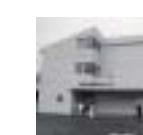
田方消防本部



田方のお医者さんが交替で急诊診察

夜間急患室

伊豆保健医療センター



夜間急患室の当直を勤める

すぎやま たつろう
杉山 達郎 医師 (函南さくらクリニック)

夜中に突然発症する病気は、風邪や腹痛というケースが多いので、経験豊かな開業医が診察する『夜間急患室』に来ていただければ、素早く症状を見極め、適切な処置ができます。もちろん入院や手術が必要な場合には、より高度な機能を持つほかの医療機関との連携システムも確立されています。安心してご来院いただきたいと思います。

ただし、『夜間急患室』はあくまでも急患対応なので、薬などは多くお出しできません。その点をご理解のうえ、ご活用ください。

伊豆保健医療センター
電話 0558(76)0111